

精神障害者の生活支援システム

問題 73 精神障害の特性に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 疾患が固定化することによって、障害へと移行する。
- 2 仲間同士の交流は、日々の生活の対処能力を高めることにつながる。
- 3 活動範囲の拡大は、疾患へ負の影響を与えることが多い。
- 4 新しい事柄に取り組みづらいのは、パターンリズムという特性によるものである。
- 5 様々な場面への活動や参加は、健康状態の向上へと導くことになる。

問題 74 Bさん(48歳、男性)は、Z精神科病院での25年間の入院生活を経て、アパートで単身生活を開始した。そのような中、地域のごみステーションに、不燃物を出す日を間違っていたことについて、近所の人から注意を受けた。以来、Bさんはごみを出すことが不安になり、Z精神科病院のC精神保健福祉士に相談した。

次の記述のうち、C精神保健福祉士のかかわりとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 地域生活の中では、ごみ出しのことは些細なことにすぎないので、そのようなことを気にする必要はないと慰めた。
- 2 Bさんが気にするあまり、病状が再燃してはいけないと考え、近所の人ところに、C精神保健福祉士が単独で謝罪に行った。
- 3 失敗体験が続くことによって自信を喪失してしまわないようにと、生活予定表を作って管理し、その結果を報告させるようにした。
- 4 近所の人との良好な関係を構築することの大切さを伝え、どのように対応するかをBさんと一緒に考えることにした。
- 5 Bさんからホームヘルパーの希望が聞かれたが、他者に頼ることは継続的な暮らしを考えれば、自立の妨げになることを伝えた。

問題 75 「障害者総合支援法」に基づく共同生活援助(グループホーム)に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 希望する者は、入居前に体験的な利用ができる。
- 2 入所施設又は病院の敷地内にある。
- 3 利用期間は、最長で6か月である。
- 4 サテライト型住居も認められている。
- 5 利用者は、主として昼間において日常生活上の援助を受ける。

(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 76 「障害者総合支援法」に基づく市町村が設置する協議会(市町村協議会)に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 障害支援区分の審査、判定を行う。
- 2 インフォーマルな社会支援も含めた支援体制の整備を検討する。
- 3 個別事例の支援のあり方について協議する。
- 4 地域移行支援の対象者を決定する。
- 5 総合的・専門的な相談支援を実施する。

問題 77 精神保健福祉にかかわる行政機関の機能と役割に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 市町村は、保健所と比較して受療支援など未治療者への対応や支援の比率は高く、日常生活支援や福祉サービス利用に係る業務の比率は低い。
- 2 保健所は、地域における精神保健福祉の第一線の行政機関として、障害福祉サービスの提供を行う。
- 3 精神保健福祉センターは、調査研究、普及啓発、自立支援医療及び障害年金の審査、判定を行う。
- 4 市町村長は、医療保護入院の必要がある際、家族が同意を拒否している場合は、自らが同意を行うことができる。
- 5 都道府県知事は、精神科病院の实地指導を業務の一つとして行う。

(精神障害者の生活支援システム・事例問題)

次の事例を読んで、問題 78 から問題 80 までについて答えなさい。

[事 例]

Dさん(28歳, 男性)は, 元来穏やかな性格の持ち主で, 大学を卒業後, 5年間地元のデパートに勤め, 働くことが生きがいと感じていた。ところが, 交通事故で頭を強打し, 総合病院の脳外科に入院した。数日で意識は回復したが, 以後根気が続かず, また急に怒り出すなど人が変わったようになり, 高次脳機能障害と診断された。退院し復職したが, 約束を忘れたり, 客とけんかになったり, また勤務中に失禁することがあり, 2か月後に退職した。

しばらくしてDさんは, 入院中から相談を継続していたE精神保健福祉士に, 「社会保険がついたところで働きたい」と希望した。E精神保健福祉士は, Uワークを紹介し, Dさんはそこで働き始めた。(問題 78)

Dさんは, 働き始めた当初, 他の利用者とトラブルになったこともあったが, 慣れてくると, 徐々に周囲から信頼を得られるようになった。ちなみに, Uワークでは, 一般就労へ多くの人たちが移行していた。そのような中, UワークのF精神保健福祉士は, 取引先のVスーパーマーケット(以下「Vスーパー」という。)へ, 意識的にDさんと共に, 商品を持参する機会を増やした。Vスーパーには, 80名の従業員が雇用されている。F精神保健福祉士はハローワークの担当者と共に, Vスーパーの社長に, 障害者雇用を打診した。社長はF精神保健福祉士に対して, Dさんをはじめ, 7, 8名の障害者を雇用したいと意欲的に語った。そこで, F精神保健福祉士はVスーパーの経済的負担の軽減を図ることができる給付金を紹介した。(問題 79)

その後, DさんはVスーパーの面接を受け, 採用が決まったものの, 不安感を抱いていた。それはDさんが, デパートに復職したころの客とのけんか等がトラウマになっていたからである。そこで, F精神保健福祉士は, 就職後のフォローアップをすることにした。(問題 80)

問題 78 次のうち、Uワークの事業として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 就労継続支援A型
- 2 就労継続支援B型
- 3 地域活動支援センター
- 4 就労移行支援
- 5 自立訓練

問題 79 次のうち、Vスーパーに対して、F精神保健福祉士が紹介した給付金として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 障害者雇用納付金
- 2 障害者雇用調整金
- 3 報奨金
- 4 中小企業障害者多数雇用施設設置等助成金
- 5 精神障害者等雇用安定奨励金

問題 80 次の記述のうち、Dさんに対するF精神保健福祉士のかかわりとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Dさんが職場において、課題に直面することを待ってから対応する。
- 2 Vスーパーを支援の場として用いずに対応する。
- 3 期限を定めず家庭訪問を頻回に実施する。
- 4 同じように就労移行した人たちと、交流する機会を設定する。
- 5 Dさんが今後Uワークに立ち寄らないことを確認する。